2022.02.24 木曜礼拝

イザヤ書 66 章　謙虚になる

JD ファラグ牧師

こんばんは。週半ば「聖書の学び」へようこそ。今夜、ご参加下さり大変うれしいです。木曜日の夜は、旧約聖書を書ごと、章ごと、節ごとに学びます。そして今夜、「イザヤ書」を学び終えます。お〜皆さんがこういう反応かと思ってました。「はぁ。。。。」OK。構いませんよ。遅すぎますって。残念！！　ちょっと、ほろ苦いですよね。なんと素晴らしい書でしょうか。とにかく、、、未だの方は、66 章を開いてください。オンラインの方も同様にお願いします。祈りましょう。今夜の聖書の学びを、神が祝福して下さるよう、一緒に祈りましょう。

お〜主よ。主よ、心から感謝します。あなたの御言葉に感謝します。木曜日の夜のこの時間をありがとうございます。信者として集い、オンラインで参加の人たちもおられます。神よ、私たちは、今夜共に過ごすこの時間に、祝福をお願いします。主よ、今夜はウクライナの人々にも思いを寄せます。状況が激しいようで、エスカレートするにつれて悪くなっているようです。主よ、私たちは数字を見て、それが画面上の数字に過ぎませんが、彼らは人々なのです。あなたが愛しておられる人々です。あなたは、その人々のために死なれたのです。主よ、今、何が起きているのか、ただただ祈るばかりです。ええ、預言的な意味がありますが、彼らは、あなたを必要とする人々なのです。ですから主よ、今、そこで起きていることが、この終わり時に、この時の遅い今、人々をあなたのもとに導くという、必要な効果をもたらすよう祈るばかりです。主よ、私たちがあなたのもとに来れることに感謝します。主よ、あなたの民として、私たちは今夜あなたのもとにやってきました。聖霊の助けによって、あなたが私たちを導いて下さる事を、あなただけが御出来になる通り私たちの心を励まし、強めてくださるのを知っています。一緒に過ごす時間、今夜の御言葉の中で、主よ、あなたがしてくださることに、前もって感謝します。主よ、私たちは必死です。私たちはあなたを切に求めます。私たちは大変飢えていて、大変必要で、、、お〜とても美しい、、、 主よ、毎時間あなたが必要です。主よ、ありがとうございます。あなたをとても愛しています。この時間を祝福してくださいますように。イエスの御名によって祈ります。アーメン、アーメン。

それでは！　言っておきますが、実は、このイザヤ書最後の章を教えるのをとても楽しみにしていたのですが、その理由は主に 2 節にあります。私にとって、 この章、この最終章だけでなく、間違いなく、この書全体が教訓です。特に、神の民が「謙虚になること」に関連します。これから見ていく通り、神が民をご覧になり、心を動かされる通り、私たちが見る神は謙虚であられます。実際に、あ〜ごめんなさい。誰かにこんな風に言われるの嫌ですよね。「あ！いや、気にしないで！」最近、主は謙虚さと砕かれる事について、私の心に強く印象づけておられるのです。始める前に、これだけ言わせてください。皆さんの心に祝福を与えてくださるよう、聖霊に任せたいと思います。しかし皆さん、お気づきですか？　二者が謙虚であると、彼らは議論しない。もう一度言います。同じことを違う言い方で言います。あなたが謙虚なら、議論をしませんね。日曜日の新約聖書の学び「ヤコブ書」で学びますが、あなたがたの間の戦いや争いは、何が原因でしょうか。（ヤコブ　4：1 参照）プライド/高ぶりです。高ぶりが原因です。夫と妻の関係について話しましょうか。夫婦の関係です。 自分が謙虚であると、どうやって、お互い言い争えますか？　つまり、その議論はいつまで続きますか？　全然続きませんよ。それが謙虚さの力です。ある意味、前置きのようなもので、私たちがこれから見るものは、まるで神が、こう仰っているかのようです。「わたしはこれが分かっています。わたしが心を動かされ、心打たれるのは謙虚さです。」なぜか分かり

ますか？　自分自身に質問、なぜかという質問をしたことがあるなら、理由は、神が謙虚であられるからです。神は謙虚な方です。そんな風に思ったことはないですか？
神が、謙虚な者には恵みを与え、高慢な者には敵対されることを私たちは知っています。
（ヤコブ　4：6　参照）
「箴言」の通り、神は高ぶりを遠ざけられ、「わたしから離れなさい。」なぜか？　なぜなら、神が謙虚な方だからです。イエスは、地上で公のミニストリーの際、柔和さがあられました。弱さではありません。どうか、柔和さを軟弱さと決して同義語にしないでください。イエスは神の化身です。全知全能の神が肉に宿った方です。イエスは大変謙虚で、柔和でした。だから子どもたちはイエスに惹かれたのです。イエスの表情、外見、態度に、人を惹きつける何かがあったのです。謙虚さです。それが謙虚さです。謙虚さには、大変惹かれます。そして高ぶりには、大変反発します。実に私にとって、そのことがこの書を要約します。御言葉において、要約できるのは、「謙虚さ」です。神の民の側の謙虚さ。それを今から見ていきます。１節、

イザヤ　66

1 主はこう言われる、「天はわが位、地はわが足台である。あなたがたはわたしのためにどんな家を／建てようとするのか。またどんな所がわが休み所となるのか。」

2 主は言われる、「わが手はすべてこれらの物を造った。これらの物はことごとくわたしのものである。しかし、わたしが顧みる人はこれである。すなわち、へりくだって心悔い、わが言葉に恐れおののく者である。

まるで、神がこう仰っているかのようです。「わたしの心を動かすものが何もない。じゃあ、それでわたしが心動かされるとでも？　それを造ったのはわたしです。」考えてみてください。その時代、王や王族には常に玉座があって、彼らは足台があって、王座に座ることができたでしょう。神はこういう風です。「わたしには御座があります。天にね。お～、地球はわたしの足台で、わたしの足を乗せるのです。わたしの心を動かしたいのですか？　わたしの気を引きたいのですか？　わたしを感動させたいのですか？　そんなことではわたしは感動しません。それではわたしには意味がありません。何がわたしの心を動かすか分かりますか？　謙虚さです。それが、わたしの注意を引けます。それが、わたしが顧みる人。」イエスが仰るように、それが貧しく、心砕かれた者。自分の必要性を容易に認め認識し、へりくだって心悔い改める者。この謙虚さ、霊的に謙虚。そしてその結果、いつも神の御言葉に恐れおののくです。こんな風に見てください。こんな風に言います。あらゆる御言葉にしがみつくこと。自分が謙虚で、自分には必要だと認め、こんな風なら、自分が必要だから主を見、あらゆる御言葉にしがみつき、神の御言葉に恐れおののきます。それが、神が顧みられる者なのです。それが、神の御心を動かす者です。神の御心を動かすと、神の御手に心動かされます。それが謙虚さで、へりくだる事です。お～　私たちが、主の御前にへりくだりますように。問題は、私たちはうなじが堅く、傲慢で、頑固で、分からず屋で、自分のことばっかりなのです。高ぶりが何と言いますか？　高ぶりはこう言います。「私にあなたは必要ないね。私はあなたより優れている。私はあなたより重要な存在。」それが高ぶりです。「そんな暇はないさ。私を誰だと思っているのか。」面白い話を思い出します。家内と結婚した頃、彼女は、フライトアテンダントの同僚がいました。その同僚が、あるフライトアテンダントの話をしたんです。乗客を席に案内していて、すると、ある非常に傲慢な人がいて、こんな様子でした。「私を誰だと思っているのか。」そして彼女の反応がこうです。非常にすばらしい。お～、その便に乗っていたかったです。彼女は、「お～申し訳ありません。

あなた様がどなたか存じません。」それから彼女は、そのファーストクラスとそれ以外の乗客との仕切りのカーテンを引きました。それを開けて、叫んだんです。「どなたか、この人をご存知ですか？」ー(笑)ー　おお、いいですねえ。それを何と呼ぶか知っていますか？　それも「ヤコブの手紙」です。それが「謙虚になる」ということです。へりくだりと、人前で人に恥をかかせるのは、同じ語源を持つ単語なのですよ。「箴言(22:4)」にあります。主の御目にへりくだれば、主はあなたを高く上げてくださいます。具現化するので、自分のために使います。自分自身に当てはめます。私のために、私に対して、このように読めます。「JD、主の御目に、謙虚になりなさい。または、主にそうしていただきましょうか？」ー(笑)ーそう、主は傲慢な者を謙虚にされます。高ぶっている者を、謙虚にされます。どうかこれも見逃さないでください。これは非常に重要です。その理由が、神が謙虚であられるからなのです。神は謙虚であられます。3 節、この章は.....かなり強烈ですよ、実際。なので、ご辛抱ください。聖霊の力を借りて最善を尽くします。

イザヤ　66

3 牛をほふる者は、また人を殺す者、小羊を犠牲とする者は、また犬をくびり殺す者供え物をささげる者は、また豚の血をささげる者、乳香を記念としてささげる者は、また偶像をほめる者である。これはおのが道を選び、...

特に、この「選ぶ」という言葉に注目してください。それを覚えておいてください。

...これはおのが道を”選び”、その心は憎むべきものを楽しむ。

4 わたしもまた彼らのために悩みを”選び”、彼らの恐れるところのものを彼らに臨ませる。これは、わたしが呼んだときに答える者なくわたしが語ったときに聞くことをせず、わたしの目に悪い事を行い、わたしの好まなかった事を（ここで再度出ます）”選んだ”からである。」

さてなぜ私は、この単語、”選ぶ”・”選んだ”を強調するのでしょうか。理由は、彼らは既に、選んでいるからです。彼らはもう心を決めているのです。彼らは既に心を頑なにしているのです。彼らは既に自分の運命を封印しているのです。その為、神が彼らに語っておられても、御手を延ばされていても、彼らは反応しなかったのです。なぜ彼らは答えなかったのか？　なぜなら、彼らは既に選んでいたからです。

「あなたがたは、既に選んだのですか？　あなたが選んだものに、わたしは、あなたを委ねます。彼らは何を選んだのでしょうか。ー惑わしです。これって、ちょっと「第二テサロニケ 2 章」に似てませんか？紛れもなくそうだからです。使徒パウロが、反キリストが出現後の未来について預言的に語っているのが、教会が先に取り除かれてから反キリストが出現しますが、それから、彼らは既に選択をしているから、神は仰います。「分かりました。わたしを無理に選ばせるつもりはありません。わたしが喜ぶものを選ばず、あなたは既に悪をする選択したのですね。あなたは惑わす力を選んだのです。わたしは、あなたが選んだものに、あなたを委ねます。」

それで神は、（強い）惑わす力を送られ、彼らは偽りを信じるようになります。（II テサロニケ　2：11）

なぜか？　なぜなら、彼らは既に選択し、真理を拒絶しているからです。「あなたはもう選択したのです。あなたは嘘を信じること＝惑わす力を選んだのです。ですから、どうぞ。わたしはあなたに、無理強いはしません。あなたには自由意思があります。自由に選べます。それはあなたの選択です。あなたが決めることです。あなたはもう決めたのです。その決心は惑わす力のためです。」それが説明しています。なぜそんなに強烈なのですか？　なぜなら、私たちは皆、責任を主の足元に置きがちだからです。違います。誰のせいでもなく、自分のせいです。「あなたは、わたしに捧げていると考えたんでしょうが…それはわ

たしに、でした。あなたはこの牛の捧げものをするが、それはあなたの見方であって私の見方は違います。あなたは、思い込みが激しいのです、と言わせてもらいたい。妄想的です。あなたは、自分の思い込みを選びました。わたしは何度もチャンスを与えました。」神は長い間ご忍耐されています。神は民に呼びかけられましたが、答える者がいませんでした。彼らはなぜ答えなかったのか？「あ～必要ないさ。」自分が謙虚に、神の御言葉に恐れおののくとき、神の御言葉に恐れおののく理由は、自分がへりくだっているからで、逆に言えば、自分の傲慢、高ぶりの自己満足では、神の御言葉を聞く耳はないでしょう。謙虚さの対極にあるものです。つまり、彼らが聞くことを拒んだので神は彼らを彼らの強い思い込みに委ねられます。神が呼ばれた時に、彼らは耳を塞ぎ、聞くのを拒みました。彼らは答えなかった。彼らは聞かなかった。代わりに、悪をするのを選んだ。5節、興味深いです。

5 あなたがた、”主の言葉に恐れおののく者よ”、”主の言葉を聞け”、「あなたがたの兄弟たちはあなたがたを憎み、あなたがたをわが名のために追い出して言った、『願わくは主がその栄光をあらわして／われわれにあなたがたの喜びを見させよ』と。しかし（この対比に留意ください）**彼らは恥を受ける。**

6 聞けよ、町から起る騒ぎを。宮から聞える声を。主がその敵に報復される声を。

お～こう言っても良いですか？　もう言いましたが、もう一度言います。お～ほ～お～待ちきれません。どうして？　なぜそんなことを言うのか？　なぜなら、これは、真の神の礼拝者、神の御言葉に恐れおののく者をあざける者に対する非難だからです。神は宣言しておられます。「わたしに最終決定権があるのです。」やった～神よ！！　待ちきれません。皆さん、お気づきですか？私たちは長い間、私たちの家ではないこの世界に長く滞在しすぎています。「あなたがたの兄弟たちはあなたがたを憎み」という文脈は、勿論ユダヤ人を指しますが、間違いなく現代の私たちに当てはまります。私たちは、驚いてはいけないのです。イエスは、実は私たちに、前もって警告されました。「彼らはあなたがたを憎みますよ。しかし彼らがあなたがたを憎む理由は、あなたがたが、わたしと関連しているからで、彼らはまずわたしを憎んだのです。」ですから、名誉なのです。彼らは私たちを憎みます。私たちが問題なのです。分かりますよね、クリスチャン？　私たちが問題なのです。それに対して私が言うのは、もうあまり長くはかかりませんよ。邪魔にならないようになります。邪魔にならないようになりますよ。そしてどうなるのか？　そのあと、お好きにどうぞ。あなたは、この世界を手に入れることができます。私にはイエスを下さい。あの不朽の名曲の讃美歌です。よくぞ言ってくれました。そう歌います。ええ一旦、私たちが邪魔しなくなると、、、今、邪魔していますよね？　引き止めている者が取り除かれると、（II テサロニケ　2：7 参照）彼らはこんな風になります。「お～やっと。ほ～。」

「あなたがたは、自分が何を求めているのか、わかっていない。」（マタイ　20：22）

「お～やっと、ずっとやりたかったことができるぞ。」どうぞどうぞ。しかし、その時が来れば、「主が、その敵に報復される。」というのも神は、天国に精密に記録を残されておられます。皆に、その人が行ったこと、言ったことに応じて報いがあります。これについて考えていました。実は日曜日に、その事に触れたと思います。皆さん認識していますか？　私たちはこれまで話したすべての言葉にソーシャルメディアに投稿した全投稿に、申し開きをせねばならないのです。それだけでアカウントを削除できるはずです。つまり、全ての発言、全ての行動、全ての事です。すべて記録されています。そして私たちは、申し開きをするのです。救われている人には、イエスがその申し開きを取られ、仰います。「完済。」「全額支払い済み。」「わたしがそれを支払いました。」「ほ～、主よ、ありがとうございます。」そして、次の人の番になって、「これは？」「それは払っていません。」「あれは？」　「それは払っていません。」お～だか

ら、私たちはこうなるのではないでしょうか。
「ふさわしい、ふさわしいかた、主よ。」（黙示録　5：12 参照）7 節、
イザヤ　66
7 シオンは産みの苦しみをなす前に産み、（ここで方向が変わり、興味深いです。）その苦しみの来ない前に男子を産んだ。
8 だれがこのような事を聞いたか、だれがこのような事どもを見たか。一つの国は一日の苦しみで生れるだろうか。一つの国民はひと時に生れるだろうか。（これ覚えておいてください）**しかし、シオンは産みの苦しみをするやいなや／その子らを産んだ。**
9 わたしが出産に臨ませて／産ませないことがあろうか」と／主は言われる。「わたしは産ませる者なのに／胎をとざすであろうか」と／あなたの神は言われる。
待ってください。これは何のことですか？　お～頼みますよ。皆さん、これが何のことか分かりますね。これは、聖書の中で最も重要な預言の 1 つ、「イスラエル国家が一日で再建したこと」です。そんなことを聞いたことがある人はいるでしょうか？　そんなことが可能なのですか？　ちょっと待ってください。
「天はわが位（御座）、地はわが足台。わたしには何でもできます。わたしにはそれが出来ます。あなたがたは、聞いたことないだろうけど、できるんです。そして、わたしはそうしました。これを行いました。」10 節、
10「すべてエルサレムを愛する者よ、彼女と共に喜べ、彼女のゆえに楽しめ。すべて彼女のために悲しむ者よ、彼女と共に喜び楽しめ。
11 あなたがたは慰めを与えるエルサレムの乳ぶさから／乳を吸って飽くことができ、またその豊かな栄えから／飲んで楽しむことができるからだ。」
12 主はこう言われる、「見よ、わたしは川のように彼女に繁栄を与え、みなぎる流れのように、もろもろの国の富を与える。あなたがたは乳を飲み、腰に負われ、ひざの上であやされる。
13 母（父ではないのが興味深いですね）**のその子を慰めるように、...**
神はご自分を母親の慰めに例えて仰います。
...わたしもあなたがたを慰める。あなたがたはエルサレムで慰めを得る。
14 あなたがたは見て、心喜び、あなたがたの骨は若草のように栄える。主の手はそのしもべらと共にあり、その憤りはその敵にむかっていることを知る。
ここに再度、対比があります。覚えておいてください。
15 見よ、主は火の中にあらわれて来られる。その車はつむじ風のようだ。激しい怒りをもってその憤りをもらし、火の炎をもって責められる。
あ”～～～　言ってみれば、こんな唸り声で。
16 主は火をもって、またつるぎをもって、すべての人にさばきを行われる。主に殺される者は多い。」
17「みずからを聖別し、みずからを清めて園に行き、その中にあるものに従い、豚の肉、憎むべき物およびねずみを食う者は...
待って、そんなことがあるの？　はい、彼らはそうしていました。夕食を取られた方には申し訳ないのですが、実は珍味の種類だったようです。しかし、主には忌み嫌われるものです。それから主はこう仰います。
...憎むべき物およびねずみを食う者はみな共に絶えうせる」と主は言われる。

OK。お付き合いください。主の裁きが下されます。もしも、、、ではなく、主の裁きが下されるその時、絶えうせます。そして、それは火によって、剣によって、主が裁きを下されます。それって良い事です。「そうなのですか？」ーはい。なぜなら、主が裁きを下される時、再度、留意ください。慰められる者と裁かれる者との対比を。主における私たちは、慰められます。母からの慰めのように。逆に、そうではない者は、主が裁きに来られる時に、裁かれます。これは話したくないことなんですよね？　敢えて言いますと、真実は、こんにちの教会で、そのような話をするところを見つけるのは難しいでしょう。というのは、これが俗に言う「火と硫黄の裁き」だからです。そう、ご存知ですか？　ソドムのように、火と硫黄が降るのです。ええ、今は無理ですが、ロトが取り去られるや否や、火と硫黄が降り注ぎます。そして、ソドムの人々は、裁きで滅ぼされるのです。ロトの時代と同様に、、、今後、人の子が来られる日にそうなります。それが起こります。それが起こる時、主の裁きが下される時、恐ろしく、想像を絶する苦悩になるでしょう。18 節、この箇所は、この章の最後にまた触れます。

18「わたしは彼らのわざと、彼らの思いとを知っている。わたしは来て、すべての国民と、もろもろのやからとを集める。彼らは来て、わが栄光を見る。

19 わたしは彼らの中に一つのしるしを立てて、のがれた者を（これ覚えておいてください）**もろもろの国、すなわちタルシシ、よく弓をひくプトおよびルデ、トバル、ヤワン、またわが名声を聞かず、わが栄光を見ない遠くの海沿いの国々につかわす。彼らはわが栄光をもろもろの国民の中に伝える。**

神がご自分を自慢される時が大好きです。

20 彼らはイスラエルの子らが清い器に供え物を盛って主の宮に携えて来るように、あなたがたの兄弟をことごとくもろもろの国の中から馬、車、かご、騾馬、らくだに乗せて、わが聖なる山エルサレムにこさせ、主の供え物とする」と主は言われる。

21「わたしはまた彼らの中から人を選んで祭司とし、レビびととする」と主は言われる。

さて、これは何の話でしょう？　先週、65 章で話した「王国時代」について、明らかに語っています。これは、千年王国が地を 1000 年間支配し、地は罪が入る前のようになるのです。1000 年の間、エルサレムがあり、神殿さえあります。祭司の奉仕やレビ人の捧げものもあると言われています。生贄を必要としないため、より象徴的なものになると思います。イエスが世界の基に置かれた生贄だからです。しかし、1000 年間です。ちょっと待ってください。では、のがれた者はどうしたのでしょうか？　あ〜、のがれた者とは、どうにかして……どうやってか、その方法も分かりませんが、7 年の患難時代を生き延びた者です。どうにかして、彼らはキリストも、反キリストの獣のしるしも両方受け入れない者です。逃げのびた 7 年の終わりを迎え、定めにより、人は死を望み、裁きを受けます。ですから彼らは、千年王国に突入するのです。これはそういうことを指しています。さて、またまた先週話した通り、皆さん、行ったり来たりして、また戻ってここで急旋回するので、むち打ち症にならないよう願いますが、千年王国についてを話して、今や、新天新地についてを再度話します。22 節、ここに時間を取りたいのです。すぐ理由は分かると思います。

イザヤ　66

22「わたしが造ろうとする新しい天と、新しい地が／わたしの前にながくとどまるように、あなたの子孫と、あなたの名は／ながくとどまる」と主は言われる。

23「新月ごとに、安息日ごとに、すべての人はわが前に来て礼拝する」と／主は言われる。

24 節、いよいよ「イザヤ書」最後の節です。

24「彼らは出て、わたしにそむいた人々のしかばねを見る。そのうじは死なず、その火は消えることがない。彼らはすべての人に忌みきらわれる。」

それでは、祈りで締めくくりましょう。「それがこの章の終わりですか？　え～？！　これで、完？待ってください。これは恐ろしい！」その意味が込められています。「その火は消えることがない、？　永遠のように聞こえます。」ーはい、そうです。「そのうじは死なず、？　永遠に聞こえます。」ーはい、そうです。「待ってください。地獄が永遠という意味ですか？」ーはい。「ちょっと待ってください。牧師さん。失礼ながら、ある人の本を読んだら、地獄は永遠ではないと書いてありましたよ。」それは間違っています。私は神の御言葉を読んでいて、神の御言葉が仰っています。「地獄は永遠。」「牧師さん、なんだか強烈になってきましたね。」バランス良く話せるよう最善を尽くします。このような言い方をするのを許してほしいのですが、より良い言い方がありません。これは、”地獄”がどれほど恐ろしいか、私たち一人一人を怖がらせます。分かりますか？　ちょっと待ってください。「議論の目的で、ちょっと和らげましょうよ。」多くの人がそうしますよね。「そんな意味じゃないって言いましょうよ。」そうなのに、、、「そういう意味じゃないって言いましょうよ。」じゃあ、どうなりますか？　地獄が永遠でないなら？　待って、なぜ、イエスが来られて死ななければならなかったのですか？　つまり、イエスがなさった方法、イエスがなされたすべての経験、このまま存在を消して、全滅なのなら、それで終わりです。あなたは救われています。そうでしょう？　何から？　何から、あなたは救われているのですか？そんな言葉を投げかけるのは、悲しい時代ですね。「私は救われています。」何から？　永遠の地獄からですよ！！！イエスが私を、地獄から救って下さったのです。私は永遠の地獄には行かない。わお～それを視野に入れてください。この情熱と感情を許してほしいのですが、こうして私はキリストの下へ来たのです。私は、文字通り、地獄というのに恐れていました。私は、ハマって聴いていた音楽で悪魔が取り憑いていました。騙され惑わされて、大したことないと思っていました。AC/DC というグループバンドの、「私は地獄へのハイウェイにいる。」私の友人もみんなそこにいて、大きなパーティーになりました。私が救われた時、本土での、寒い 1 月の夜でした。自分の部屋に入り、福音が非常にシンプルに示されているのを耳にしたのです。私は、サタンは本当に実在するのだと実感しました。結論は、サタンが実在するなら、イエスも実在するということです。そして、地獄が実在するなら、天国も実在するということです。そして、地獄が永遠なら、天国も永遠ということです。私の祈りがどんなのだったか知っていますか？　聞いてください。私たちは愛情を込めて、罪びとの祈りと呼ぶ方々を知っています。何も問題はありませんよ。私たちはそれをしませんが、何も問題はありません。ある祈りを暗唱したり、私の後に繰り返して言ったり、また決まった方法で言うのではありません。あなたが救われていて、それがあなたの救われた方法なら、私はまだ救われていませんね。私の祈りはこうだったからです。

「神よ、、、私はとても酔っぱらっていました。祈りのろれつが回りませんでした。そう祈りながら、眠りにつきました。基本的に、私は祈りながら言いました。「神様、私は地獄に行きたくない。」私は地獄行きのハイウェイにいました。「私は地獄に行きたくない。天国に行きたい。」そのまま眠ってしまったのです。翌朝、目覚めた私は、キリストにあって新しく創造された者でした。すべてのものが過ぎ去り、すべてが新しくなったのです。また、人によって違うと思いますが、私にとっては大変ドラマチックでした。あまりにも一瞬の出来事だったのです。アルコール、タバコ、薬物の依存症で、これら全てがなければ、

一日を始めることができなかったのです。翌朝、目が覚めて、それらに手を伸ばしたんです。私の中に住まわれている聖霊が、その静かな美しい、小さな精錬された声が仰いました。「あなたにはもう必要ありません。」その欲求が取り払われました。そして決して振り返りませんでした。それが 40 年前です。待って、さっと計算したほうがいいね。そう、40 年です。わお～大昔です。私はまだ 5 歳でした。いやいや、違います。19 歳でしたね。計算しないでくださいよ。ー(笑)ー
40 年前です。決して振り返りませんでした。しかし私は、そこまで来て、気づかねばならなかったのです。「ちょっと待てよ。私がいる道は、地獄に向かっている。」
人が見て自ら正しいとする道でも、その終りはついに死に至る道となるものがある。（箴言　14：12）
それは死に至る道であり、その道、その門は、とても広く、多くの人が入ります。「主に殺される者は多い」というのは、非常に興味深いですね。これについては、日曜日にお話しする予定です。ちょっと締めくくってみますが、これは日曜日に少し話をする予定です。最後まで聞いてください。これが、全てなのです。これが全ての問題です。これが一番のポイントです。これしかない、のです。あらゆることが今起こっています。それが、この天国か地獄かに集約されます。あなたが見るあらゆる人々が、救われるか、救われないかのどちらかです。それが結論です。終わりの日に、それだけが問題なのです。今日は、大変な一日でした。ウクライナで起きていることを全て見ているからです。胸が張り裂けそうです。このロシアのウクライナ侵攻による死者数に、軽薄なコメントがあるからです。その数字を見て、自分自身に思います。ふむ。。。その数は増え続けていくと思います。しかし、ここで自問自答しました。「彼らはイエスを知っていたのだろうか。」なぜなら彼らがイエスを知らないなら、その危機的状況下で、最後の息をし、次に息をするのは永遠（天国か地獄か）。繰り返しますが、お付き合いください。私の心をお伝えしたいのです。だから、最後に時間を残しておきたかったのです。とても重要です。これが、永遠に続く地獄の現実についての厳然たる事実です。私たちは夢中になっています。以前にも共有しましたが、私たちは皆と議論していると、誰もイエスに導けません。救われている人との議論で多忙だと、救われていない人に辿り着けません。お～何と言う事、サタンはそれを楽しんでいます。彼は、一定の成功を収めました。なぜなら、私たちは夢中になってしまい、シャレではありませんよ。私たちは、これに、あれに、彼らに捕らわれてしまっています。彼はただリクライニングチェアに座って、リモコンを手に、ポップコーンを食べながら、ただそのショーを楽しんでいます。
質問します。それは修辞的なもので、自分自身に聞きます。聖霊に心を調べてもらうのです。質問とは、なぜ私たちは、天国と地獄の寸前にいるのに、そういうことに捕らわれるのか？　私たちは何をしているのでしょうか？　なぜ私たちは、天国と地獄、永遠に続く問題なのに、そんなことに時間を費やしたり、議論したりするのでしょうか？　つまり、それが視野にありますか？　外出先であなたが会うその人、レジの行列に並んでいる人、その人がイエスを知らなければ、永遠に地獄で過ごすことになるのです。それが真理です。イザヤの聖霊による語りで、この書は、このように締めくくる必要があるのです。それが終わり方だからです。それが当然ながら、私がいるべき場所、要（かなめ）が要である場所に、私を元に戻してくれる方法です。日曜日の「聖書預言・アップデート」のタイトルは、「核心」です。私たちは核心に迫ります。このフレーズの由来を知っていますか？　昔の映画の時代、要点や場面を切り取って核心に迫る/結論を言うのです。そうこれは、本題に入るための方法なんです。ここで遊んでいる暇はありません。これが核心です。イエスが全てです。イエスが全てなのです。その他諸々は、無関係で無意味です。「ええ、でもああでもない、こうでもない、どうのこうの。。。」止めてください。止めてくださ

い。私たちは、「寸前」にいます。私が寸前だと言うのは、人類の歴史上、今がその時なのです。突如、全てが起こり、それで終わりです。書が閉じられ、子羊の書に自分の名がなければ、あなたは永遠の地獄行きなのです。それ、分かりますか？　激しく言うのをお許しください。それを踏まえて、私はこう言います。私はこれを聞く必要があります。これを聞く必要があるのです。あなたはそんなことで忙しすぎます。愚かなことで。はい、愚かと言いました。聖書にあります。ちなみに「箴言 13 章」です。愚か者。その、愚かという単語が好きです。マリヤとマルタを考えます。あ〜なんと素晴らしい。この記述を聖書に記して下さったことを、神に感謝します。どうなったか知っていますよね？　マルタがキッチンにいて、、、彼女は文字通り、主のために働いているのです。「主が夕食に来られるのです。」「ほ〜何を料理するの？」「分からないけど、何ヶ月も前から計画してます。」そこへ主が来られ、マルタはキッチンにいます。すべて完璧でなければならないのです。主なのだから。私は、主のためにやっている。その時、マリヤはどこ？　あ〜彼女は、、、実際、読んでみると、、、皆さん是非読むのをお勧めします。マルタは実際、イエスに腹を立てています。マリヤをただ座らせておられるから。マリヤは、イエスの仰る言葉にしがみつき、イエスの御言葉に恐れおののいています。それでマルタが主に言います。

「主よ、妹にここに来て、手伝うよう言ってください。やることがたくさんあるんです！」（ルカ　10：40 参照）

するとイエスは、イエスが怒ったり、厳しい口調になられたとは決して思わないでください。イエスは大変愛をこめて、仰ったのを想像します。「マルタ、マルタ、困ったな〜。」そうは仰いませんでしたが、ー(笑)ー「わたしが言いたいのは、あなたは何をしているのですか？　あなたがしていることは、良いことですが、マリヤがしていることは、1 つだけです。より良いものを選びました。彼女はわたしの足元にいます。聞きなさい。あなたが何を作っていてもきっと美味しいでしょう。でも今、わたしはここにいます。わたしがここにいるのです。」ポイントは何か？　ポイントは、主の働きをするという旗の下で、私たちは肝心なことを見逃していました。「ええ、でも色々と忙しいんですよ。」私はマルタを想像します。さあ、自分自身に正直になりましょう。私たち皆がマルタになっていますよね。お〜私たちって、すぐにそうしたくなるんですよね。「私たちってマルタじゃなくて、マリヤみたいです。」またまた〜あなたはマルタです。マルタと同じことをしています。

「マリヤはその良い方を選んだのだ。」（ルカ　10：42）

「マリヤはわたしの言葉に恐れおののき、わたしの御言葉にしがみつきました。」クリスチャンの生活での敵の最大の成功の 1 つは、私たちをとても忙しくさせ、色々な事に気を散らさせることです。そうすれば敵は、唯一のものから私たちを遠ざけられます。イエスから。イエスからです。恐らく今夜、私自身も含めてですが、たぶん、私たちはただ、、、忙しい毎日というキッチンを離れ、イエスの足元へ行きましょう。イエスが来られるからです。私たちは、天国と地獄の話をするのです。私は、イエスのもとに行かなねばなりません。私は人々を、イエスへと導かねばなりません。それが全てです。それが核心・結論です。なぜなら、これが起ころうとしているからです。それは、誰もが想像するよりも早いと思います。天国か地獄がかかっているのです。カポノ、上がってきてください。賛美で締めくくります。お〜本当に、むしろ、この章は違う終わり方をしてほしかったですね。そうして欲しかったですが、イザヤは、、、さあさあ〜。千年王国時代、新天と新地について詳しく教えてください。それについてが聞きたいのです。

では、あなたは、それが聞きたいかもしれないけれど、

これを聞く必要があります。なぜならそれが、私たちの優先順位を再調整する方法で、時に私たちの優先

順位が誤っていることもあるのです。私は皆さんに、この緊急性を伝えます。この時の緊急性を。なぜなら、その時が来れば、手遅れになります。私たちがこの地上で行うすべてのことで、私たちが永遠で何をするか、永遠をどこで過ごすかが決まるのです。今、何をするかで。でも、終わってしまえばそれまでです。終わりです。永遠に封印されます。それだけ緊急性が高いのです。励みにしていただければと思います。これには、強烈な、非常に必要な強さがたくさんありますが、聖化された強さですね。
愛する天のお父様。ありがとうございます。あなたの御言葉の真理に感謝します。あなたの御言葉が真理です。真理は私たちを自由にします。（ヨハネ　8：32）
あなたの御言葉の力強さに感謝します。本当に大切なものに目を向けさせて下さいます。主よ、永遠を考えればどうでもいいようなことに捕らわれる私たちを許してください。主よ、どうかお願いします。ある有名な人が言ったように、私たちの目を永遠へと固定し、永遠の視点からすべての行動を取る。あらゆる人間関係、あらゆる会話、あらゆる活動を。主よ、ありがとうございます。天国と地獄の現実のこのハッとするような注意喚起に感謝します。主よ、私たちを救って下さりありがとうございます。私たちの救いに感謝します。私たちはあなたを心から愛しています。イエスの御名によって。アーメン、アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオへ
http://www.calvarychapelkaneohe.com/
Calvary Chapel Kaneohe47-525Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii　　筆記 hukuinn7